

聖書箇所：創世記5：1～24、ガラテヤ：2：20

タイトル：「神のかたちを回復するために」

テーマ：神は人をご自身の「かたち」に創造された。アダムとエバが神に背き、エデンの園を追放されてからの人間は、いつの間にか、聖書に「～は、…年生きて、死んだ」としか記されないものとなった。しかし、神に従って生きたエノクの人生は光を放っている。「神のかたち」を損なった人間はどうしたら「神のかたち」を取り戻すことが出来るのか。

1) はじめに：

- * 創世記1章1節の神の宣言「初めに、神が天と地を創造した」とりわけ、人をご自身のかたち（神のかたち）に造られ、すべてのものを祝福して下さった。
- * ところが、アダムの罪のために、エデンの園を追放され、神との交わりが絶たれ、人は様々な祝福を失った。
- * 創5：1に「神はアダムを創造されたとき、神に似せて彼を造られ」男と女に彼らを造り、彼らを祝福したと書かれている。ところが、エデンの園を追放された後に、彼らが生んだ子セツについては「彼に似た、彼のかたちどおりの子を生んだ」（5：3）とある。
- * 神のかたちを損ない、祝福を失ったアダムの子孫（すなわち私たち）は、「～は…年生きて死んだ」と書かれるだけの存在となってしまった。

2) 本論：

- * ところが、5：21～24のエノクの生涯は、そのような悲痛な様相を示していない。エノクについて聖書は、「神とともに歩んだ」「神が彼を取られたので、彼はいなくなった」と証言している。
- * 神ご自身がエノクの手をしっかりとらえて、彼の人生を導き、エノクはその神にただすべてをお委ねして日々を過ごしているうちに、天の御国にたどり着きました、ということに他ならない。招詞で読んでいただいたように、「私は絶えずあなたとともにいました。あなたは私の右の手をしっかりとつかまえられました」という生き方の事実の上に立って「後には栄光のうちに受け入れてくださいましょう」という確信が与えられる人生。エノクの抱いた確信も同様のものだったと思われる。それがエノクには現実のものとなったのである。創世記5：24の「取る」という言葉と、詩篇73：24の「受け入れる」という言葉が、ヘブル語では同義語。
- * エノクの人生は、神の御声に聞き従って歩む中に「神のかたち」を次第に浮かび上がらせる人生。

◎今、私たちは「神のかたち」を取り戻すことが出来るのか。「生きて死んだ」と書かれる人生から解放される道は？——新しく生まれること

*どのようにして？—— イエス・キリストを信じることによって

*「イエス・キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと」を信じる。

*イエス・キリストが死なれたのは、私たちの罪を赦して、神との平和な関係を取り戻すだけでなく、よみがえって下さることにより罪のゆるしの保証と、キリストにある新しいいのちに生きることが出来る者にされたことの保証を与えるため。保証するお方は聖霊である。

*与えられた聖霊の導きに従いとおす時、私たちは日々、霊的に成長し、ついにはキリストに似た者へと造りかえられる。(Iヨハネ3：2) これが「神のかたち」をとるもどすこと。

*新しく生まれた者は、「神のかたち」を取り戻すことが出来る。ガラテヤ2：20にあるように、日々、古い自分を十字架につけ、キリストが私のうちに生きておられるという新しいいのちを生きる自覚と信仰。新しいいのちを持つものは、必ずキリストにあって、キリストに似た者へと成長する。

3) 結論：

今日は、この教会に与えられているかわいい子供たちの成長感謝式です。神がそれぞれのご家庭に祝福として与えて下さった子供たち。彼らもこの世に生を受けて、主の御手に守られてここまで成長させていただきました。彼らはさらに成長して、人生の喜びや悲しみをいろいろ体験していくことでしょう。愛する子供たちの人生が、「生きて、死んだ」と書かれるだけの人生にならないために、彼らもイエス・キリストを信じて、新しいいのちに生きなければならないことを、おとなは心に刻むべきです。親が、また教会の兄弟姉妹が、イエス・キリストにある新しいいのちに生きる者であることを、子供たちに示さなければなりません。たとえ、年老いていく者であっても、新しいいのちを持つ者は、日々、成長させていただいていることをあかしできるのです。

子どもたちは、肉体的に精神的にどんどん成長していきます。この子供たちがイエス・キリストを信じて、新しいいのちに生まれ変わり、霊的にも日々、成長していくことを願ってやみません。ひとりひとりの人生が、イエス・キリストにあって「神のかたち」を取り戻してゆく人生、すなわちキリストに似た者とされる人生でありますように。

エノクのように「神とともに歩む」人生を過ごし、主にあって成長させていただき、いつの間にか天の御国に帰らせていただきましたという人生でありますように。